

成年年齢引き下げを境に あなたは大人になれますか？ —自立した消費者になるために—

櫻井 政子 Sakurai Masako 大阪府立東高等学校 家庭科教諭

消費者教育 実践事例集

生徒は成年年齢引き下げを どのようにとらえているか

本校は、理数科・英語科・普通科の3つの学科を設置し、校訓「高志・卓行」に基づく「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する」人材育成を目標とし、そのことを生徒はしっかりと心に刻み、日々勉学に部活動に励んでいます。

さて、成年年齢引き下げについて、生徒たちの間では、「18歳で大人？」「同じ高校生の中で大人と未成年がいるってどうなるの？ 同じクラスで変な感じ……」とさまざまな疑問が頭の中で飛び交っているようです。どんな変化が生まれるのか予測もつかない高校生に、一人の大人として、安易に「何とかなる、大丈夫」とは言えません。また、在学中に「成人」する生徒に直面する教員側としても、生徒を「大人」として扱うとはどういうことなのか、と自問自答しつつ、彼らが絶対に消費者トラブルに巻き込まれないようにしたいという思いがあります。そのために、生徒たちがまず自分自身の問題としてとらえ、基本的な知識を定着することに重点を置き、次のような内容で授業を行いました。

本授業の2本柱「家庭経済」「契約」

家庭基礎の単元「消費生活と経済」を3学期に設定し、1年生(理数科は2年生)に8時間の授業を行いました。自立した消費者になるために、ぜひ学んでほしい内容を「家庭経済」と「契約」の2つに絞りました。

- 1時間目：成年年齢引き下げについて／ライフプランの中における費用
- 2時間目：社会保障と税金・民間保険
- 3時間目：給与明細の読み取り
- 4時間目：家計におけるフローとストック／投資・資産運用の格言「すべての卵を1つのカゴに盛るな」
- 5時間目：1～4時間の授業をベースに自分のライフプランを考える
- 6時間目：契約／消費行動の留意点
- 7時間目：キャッシュレス時代のさまざまな決済方法
- 8時間目：クレジットカードのしくみと留意点

まずは、「家庭経済」を知るために自分のライフプランを考えさせました。結婚、育児、住宅購入など人生の大きなイベント等も想定しながら、青年期から高齢期へと進めます。そうするなかで、予期せぬリスクに見舞われることもあります。その時、どのような対策を取っておくべきか、貯蓄、投資、民間保険、社会保障などの重要性を学びました。

そして5時間目に全国銀行協会発行の「生活設計・マネープランゲーム」でシミュレーションしました。このゲームでは自分の選択した仕事の収入および支出、さらに車の購入、保険の加入、結婚をするか、住居の購入なども考え、ワークシート(図)に記入し(写真)、40歳時点の貯蓄額を算出します。それぞれが考えたマネープランの結果を見据え、今後この貯蓄額で人生のアクシデントやイベント事を乗り越えることができるのかを考えます。多額の赤字が出てしまった人はどこでどのようにマネープランを軌道修正するとよいのかなどの振り返りをさせました。

図 ワークシートの一部

◆< 30歳 ~ 40歳 > 様々なライフイベントを経験

・結婚しない
 ・結婚する【 DINKS / DEWKS(1・2・3・)人】
 ・結婚する【 収入源は1人で子どもなし / あり(1・2・3・)人】

摘要欄	収入	支出	😊
結婚資金		万	
配偶者の年間支出 ()万×10年		万	
子どもの年間支出 ()万×10年		万	
収入(ダブル Incomeは1.5倍) ()万×10年	万		
基本生活支出カード() ()万×10年		万	
非消費支出 ()万×10年		万	
自動車購入(する・しない) ()ランク			
各種保険(入る・入らない)			
住居費を除いた収支 計算してみよう	万	万	P

* 住居費をのぞいた
40歳時点の貯蓄額…B
()万円

😊 思い出ポイント ()P

契約と消費者問題を学ぶ

契約について「成人になると、自身の責任のもとで有効な契約を行うことができる」と生徒に話しても他人事のように看過されてしまいがちです。そこで、私が契約の一例を挙げると、「定期券を買って電車に乗る！美容院で髪を切る！スマホで服を購入した！」など、やっとたくさんの声が上がりました。契約が生徒たちの日常生活に溶け込んでいるため、仕方がないことかもしれません。ここでは契約に関する基礎知識、日常生活のさまざまな販売方法、消費者の権利を守る制度、キャッシュレス決済についてなどを学びました。クレジットカードのしくみと留意点に関するワークの一部を紹介します。

A子さんとB子さんはクレジットカードで1月に3万円のカメラ、2月に6万円の高級自転車、3月に9万円のタブレットを購入しました。A子さんは3回払い、B子さんは毎月2万円のリボルビング払いの契約です。

このワークでは「どちらが早く返済できたか」だけでなく、「家庭経済」で学んだことも振り返りながらいくつか事象を挿入してみました。例えば、もっと高額な商品を購入し、予期せぬトラブルが重なった場合、家計の出費が収入を上回る可能性もあること、それを返済するため複数社からキャッシングをすると、どんな結末が

写真 ワークシートに記入するようす



予測できるか、どうすればこのスパイラルを回避できるのかなどを考察させました。その結果、次のような感想、気づきが得られました。

- 数社からキャッシングしているうちに「利息が利息を生む」状態になることを知った。
- 「クレジットカードで買うとポイントが付きます！」に踊らされ買い物をするのは本末転倒だということを知っていない大人が多すぎる。
- お金を使うことへの慎重さを欠く人が、クレジットカードのしくみを深く分からずに使用するから自己破産が後を絶たないのだと思いました。18歳成人のことを心配するより今の大人の行動を見直すべきでは……。
- 「クレジットカードを所持していれば手元に現金がなくても欲しいものが手に入る」……この感覚おかしくないですか？我慢という言葉はないのですか？

最後に

成年年齢引き下げにおいて、18歳選挙権を挙げ、「数年前から18歳の若者も国政の重要な判断に参加している。『18歳成人＝大人＝一人前』なのだから、すべて自分で決断し責任を持つのは当然だ」と強引に社会に放り出すことが正解ではないと思います。周囲の人たちの助言は重要であり、「消費生活と経済」の授業はその第一歩としてとても大切な機会だと感じます。

一方で、自立した消費者になるために、日々、社会の動きに敏感であり、学び続ける努力が必要です。大人になることは自由を手に入れ権利を主張するだけではありません。権利の裏には、義務と責任があることをしっかりと心に留め、今後の長い人生を歩んでもらいたいと願います。